

### 親は受験にどうかかわることができるか

受験勉強は、基本的に自分でやるものです。自分でやらないと、自分のことができない自分になってしまいます。

しかし、子どもが受験で苦しむときに、まるで他人事にいることができるわけでもありません。心の中ではものすごく心配しながらも、どうかかわったらいいかすごく悩んだ経験もあります。もうすこしこうしたらよかったのという反省もあります。

そんな親の姿を見て、今の高校生はどう思っているのでしょうか。ざっくばらんにご子息ご息女にお声がけしてみてはいかがでしょうか。

「お父さんが経験した大学受験はこうだったんだけど、聞くところによると、大きな変わりようがあるみたいだと聞いた。そのことについて、お父さんはあなたにどのように話していくべきか悩んでいる。率直のところ、あなたはどんな風に考えているのか教えてほしい。」というような話し合いができれば、お互いのスタンスが定まっていくのではないのでしょうか。

特に娘の場合、とてもコミュニケーションの在り方に悩んだ経験があります。そして、娘のほうが、私に気を使っていたという思いでもあります。

息子の場合、お互いあまり気を遣うことなく、かといって大学受験に失敗し浪人しましたし、名古屋の河合塾で浪人生活を送りましたし、浪人の後、東京の私立大学に落ち着きましたが、受験のためにお金を使うばかりで、こんなにお金がかかるとはあんまりだという気持ちになったこともしばしばありました。

授業料はたくさんかかっても、大学時代の生活はつつましく、仕送りもそんなに大きな負担ではなくて済みました。その後、大学院に行きたいといわれても、「好きにしていよいよ。」というくらいでしたので、今も大学院に行っていますが、いつまで続くのかが未知数で、「働けなくなったら、仕送りはなくなる。」といっても、「それでいい。」というくらいで、あとは自己責任でやってもらおうと腹を据えています。

自分の二人の子を育ててみて、多くの教え子を受験に送り出してみて、共通することは、準備がきちんとされた場合、成功の道筋が描けるということです。

その準備をどのように行うかについて、親子が共通認識することが、親子の受験の基本理念ではないのでしょうか。任せることは任せても、共有するところを確認しておくことが、お互いの信頼関係と安心感につながると思います。

よって、あまり背負わせることない共有する準備の道筋が、お子さんの合格の秘訣です。

